

**団体名： 農産物直売所 大瀬戸ふれあい市**

**代表者： 小山 茂夫**

**所在地： 長崎県西海市大瀬戸町瀬戸檜浦郷**

#### 〔ポイント〕

平成5年、地元の消費者に新鮮な農産物を提供したいとの思いから朝市を始めた。朝市活動が軌道に乗り始めた平成7年12月、常設の農産物直売所を設置。常設の農産物直売所へ発展した後、規約や運営規則を取り決めて、組織体制を整えて現在に至る。

売り上げ手数料の15%と会員の年会費(1,000円)によって運営している。

#### 【活動内容】

1. 栽培講習会や現地検討会、先進地事例の視察研修等を実施。栽培技術向上が図られ多品目野菜づくりができるようになり、地産地消の意識が向上。
2. 直売所で販売員が直接消費者の声を聞き、意見や苦情など、会員にその都度伝える「顔が見え、話ができる」取組。
3. 学校給食食材の納入を実施。小中学生による米の収穫体験・いも掘り体験・びわの袋かけ体験、生産者講話等の生産現場研修などを実施。
4. 出荷農家は、給食残渣や牛糞、もみがら等を堆肥化等の資源循環型農業を推進。

#### 【活動の成果】

1. 平成7年直売所活動開始後10年間に、町内3カ所に農産物直売所がオープンして、競争相手が増えたが、それぞれが刺激しあって売上げを伸ばしている。
2. 直売所における現金収入が、女性や高齢者のやる気向上、生産意欲の向上となり、また、地域住民の食の安全・安心に対する意識と地産地消に対する意識が高まった。この結果、年々販売額を伸ばし、常設直売所にした当時の約2倍の6,000万円まで増加。
3. 学校給食への納入は、テレビ、新聞等で報じられ、多数の視察者が訪れるようになり、地元農産物への愛着心が生まれ、児童・生徒から感謝の言葉も聞かれる。また、安定供給に向けた計画生産、計画出荷の意識が強まった。